令和６年第４回東北町議会定例会会議録

令和６年１２月１０日（火曜日）午前１０時００分開議

○議事日程（第２号）

日程第１　一般質問

本日の会議に付した事件

日程第１　一般質問

◎一般質問

○議長（岡山粕男君）　日程第１、一般質問を行います。

一般質問の通告は３名であります。

通告順に発言を許します。

10番、市川俊光議員は、一問一答方式による一般質問です。市川俊光議員の発言を許します。

〔10番　市川俊光君登壇〕

○10番（市川俊光君）　こんにちは。日本共産党の市川俊光です。早速質問させていただきます。

最初の質問は、ジェンダーギャップを解消する取組についてです。地方の人口減少が進み、地域経済、産業の担い手が不足したり、コミュニティーの維持が困難になる事態が全国どこでも懸念されています。

我が町も合併で、新東北町が誕生した2005年には２万人を超えていた人口が、現在では１万6,000人台となり、さらに2040年には１万1,000人程度まで減少するという予測もされています。町を支える担い手の確保へ、地方の人口減少の要因となっている課題に真摯に向き合って改善を図っていくことが急がれると考えます。

世界経済フォーラムが毎年発表しているジェンダー格差指数で、今年日本は世界118位と発表されました。昨今、地方の人口減少の問題と世界の中で格段に遅れている日本の男女間格差の問題とに深い関わりがあることが指摘されて

おります。

町の人口減少に歯止めをかけ、男女ともに暮らしやすい町をつくるために、ジェンダーギャップを解消する取組が急がれる課題になっていると考えます。４点質問をさせていただきます。

１点目、今年６月に放送されたＮＨＫの「クローズアップ現代」という番組で、若年世代の人口移動を都道府県別で見ると、この10年間で全国33の道府県で、男性よりも女性が多く流出していると指摘していました。この指摘のように、若い女性が首都圏など都市部に移動する傾向が進んでいるということが地方の人口減少の解決を難しくしているといいます。このような若い女性が首都圏へ移動するという傾向は、我が町でも見られるのでしょうか。我が町の状況についてお答えください。

２点目、日本の遅れた男女間格差は、地方ほど女性に生きづらさをもたらしているといいます。女性の生きづらさは、女性が原因ではないし、女性だけが頑張って解決する問題ではありません。女性の生きづらさをなくし、定着しやすい町をつくるには、町として男女間格差を解消する取組が必要と考えますが、町としてのご認識をお聞かせください。

３点目、男女間格差の問題は根深く、一足飛びに解決することは難しい課題です。一方で、世界から大きく遅れた状態を改善し、女性も男性も暮らしやすい持続可能な町をつくる取組は、緊急性が求められます。町は役場にジェンダーギャップ解消に取り組む部署を設置し、継続的な取組を行うことが必要であると考えますが、町としてのご見解をお聞かせください。

４点目、町のジェンダーギャップの解消へ町役場が率先して行動することが大切であると考えます。町役場の職員の構成や役職など、人事面からジェンダーギャップの解消を進めていくお考えがあるのか、お考えをお聞かせください。

２つ目の質問を行います。米軍三沢基地へのＦ35戦闘機の配備について伺います。アメリカ国防省は、米軍三沢基地に配備されているＦ16戦闘機をＦ35戦闘機に更新することを発表しました。Ｆ16戦闘機は、1985年に三沢基地に配備されて以来、13機が墜落しています。また、燃料タンクの投棄を19回行い、模擬爆弾の落下事故が12回発生いたしました。2018年２月に小川原湖に、2021年11月には深浦町の役場の近くに燃料タンクが投棄されたことや、2019年11月に

六ヶ所村内沼近くの牧草地に模擬弾が落下したことなどは記憶に新しいところです。低空飛行の強行やエンジントラブルなどによる民間空港への緊急着陸なども含め、Ｆ16は三沢基地周辺に暮らす人々に対し、多大な不安と危険をもたらしてきたと言えます。

基地周辺の地域では、このたびＦ16戦闘機が撤退することについては、安堵の思いを抱いている住民も少なくないと思います。しかしながら、代わってＦ35戦闘機が配備されることについては、新たな不安が生まれています。米軍三沢基地へのＦ35戦闘機の配備について、３点質問をいたします。

１点目、米軍は、2026年春から三沢基地へのＦ35戦闘機の配備を開始するとしています。Ｆ35のエンジン出力が大きいこと、機体数が増えることなどから、戦闘機による騒音が一層激しくなることが予想されます。町は、Ｆ35の配備で予想される騒音激化に対してどういう対応をしていくのか、お考えをお聞かせください。

２点目、米軍基地周辺に住む町民は、これまでも戦闘機の騒音のため、平穏な暮らしが脅かされている状態です。町に騒音被害に苦しむ住民がいることを踏まえ、町は騒音の被害の軽減、解消を目指すという基本姿勢を明確に持つことが求められると考えます。町としてのお考えをお聞かせください。

３点目、三沢基地の戦闘機の更新によって、基地周辺住民の暮らしに新たな不安が生じています。町はこの時期に、三沢基地がもたらしている被害や不安について、基地周辺に暮らす住民の声をよく聞く必要があるのではないでしょうか。三沢基地の問題での住民懇談会を行うお考えがあるのか、町のご見解をお聞かせください。

以上、質問といたします。ご答弁よろしくお願いいたします。

○議長（岡山粕男君）　町長。

〔町長　長久保耕治君登壇〕

○町長（長久保耕治君）　それでは、10番、市川俊光議員のご質問にお答えをいたします。

一般質問通告のありました質問事項１のジェンダーギャップを解消する取組についてお答えをいたします。質問要旨の１点目、若い女性が地方から首都圏へ移動する傾向が進んでいると聞くが、我が町での状況はどのようになってい

るかについてでありますが、過去３年間、18歳から22歳の各男女の首都圏、千葉、埼玉、神奈川、東京への転出、転入者数につきまして、令和３年度、男性は357名中、転出が10名、転入が８名です。女性292名中、転出27名、転入５名。令和４年度におきましては、男性342名中、転出17名、転入12名、女性264名中、転出は20名、転入７名。令和５年度におきましては、男性347名中、転出18名、転入５名、女性272名中、転出13名、転入６名。結果、東北町における若い人の首都圏への移動傾向につきましては、男女ともに転出が転入を上回る転出超過の傾向で推移しており、過去３か年の平均では、男性が７名の減、女性14名の減と、若干ではございますが、女性の転出者が多くなっております。

次に、質問要旨の２点目、女性の定着へ、男女格差を解消する取組が必要と考えるが、認識を問うについてでありますが、若者の首都圏への人口流出については、多くの地域で深刻な問題となっており、特に地方では人口減少及び少子高齢化に歯止めをかけることが喫緊の課題となっております。

その中で、女性に関しては、地方への定住を妨げている要因として、多少なりともジェンダーギャップもその一因だという認識はございます。現在地方では、非正規雇用の割合が高い傾向で、特に女性が多く従事していると言われており、そのため賃金についても、一般雇用に比べ、さらに低い状況にあると思われます。

また、家庭内の家事や育児、介護などの責任を負う割合が女性が高いため、女性のキャリア形成が出産や育児等で制約され、出産をためらう傾向が高まるなど、地方の女性の就業環境について改善をしていく必要性があると認識しておりますが、このことについては町のみならず、社会全体で取り組んでいかなければ解消できるものではございませんので、国や県及び地域の事業者など、皆様とともに、男女格差を解消する取組を推進してまいりたいと考えております。

次に、質問要旨の３点目、役場にジェンダーギャップ解消に取り組む部署を設置し、継続的な取組を行う考えはないかについてでありますが、現在ジェンダーギャップ解消などを含む男女共同参画社会の推進に関する業務については企画課が担当しており、第２次東北町男女共同参画プラン等に基づき、社会のあらゆる分野に男女が対等な立場での参画が可能となる社会の実現に向け、国、

県の動向等を踏まえ、施策等を進めております。

また、女性の職業生活における活躍の推進に関する法律に基づく町の女性職員の職業生活における活躍の推進についても、町議会及び教育委員会、選挙管理委員会などとともに、第２次特定事業主行動計画を策定し、女性職員の役職登用や男性職員の配偶者出産休暇及び育児参加休暇の取得率向上に努めるなど、ジェンダーギャップ解消を推進する取組について継続的に取り組んでおりますので、ご理解を賜りたいと存じます。

続いて、質問要旨の４点目、町職員の人事において、どのようにジェンダーギャップ解消を進めるのかについてでありますが、町職員の人事においては、採用、昇進などの公平な評価制度の確立、職場環境の改善、そして意識改革が必要と考えております。

採用については、性別に関するバイアス、偏りや先入観ということですが、そういったことはなく、一次試験を町村会で行われる試験にて評価し、小論文、面接においては公正性を確保し、人物評価をしております。

任用、給与、分限その他については、現在人事評価制度を導入し、人事管理をする上で重要なツールだけでなく、人材育成の意義も有しております。

職場環境の改善等については、東北町次世代育成支援特定事業主行動計画を策定し、父親、母親である町職員に、仕事と生活の調和及び仕事と子育ての両立の取組として、育児休暇の取得を推奨しております。

また、東北町における女性活躍推進法に基づく事業主行動計画においても、数値目標及び取組を掲げ、女性職員の職場生活における活躍の状況把握、改善すべき事情を考慮し、女性職員の活躍を推進する体制を整えております。

また、メンタルヘルス研修、ハラスメント研修等においても、ジェンダーに関する無意識の偏見を解消するなどの研修を開催し、職員の意識改革にも取り組んでいるところであります。

持続可能な開発目標、いわゆるＳＤＧｓにおける目標の一つであるジェンダー平等に向けた取組は、国内ではまだまだ多くの課題が残されております。現状を理解し、今後においても国や他自治体や関係機関、団体と連携しながら、町としてできることに取り組んでいきたいと思っておりますので、ご理解を賜りたいと存じます。

次に、質問事項２の米軍三沢基地へのＦ35戦闘機の配備についてお答えをいたします。質問要旨の１点目、米軍は、2026年春から三沢基地へのＦ35戦闘機の配備を開始するとしているが、騒音が一層激しくなることが予想される。町としてどう対応するのかについてでありますが、町に対しては、東北防衛局から報告を受けているところであり、機体が別のものに更新されることで、これまでもエンジンの形態及び出力等によって、エンジン音も音量及び音質も変わってくるものと考えております。

また、Ｆ35Ａ戦闘機の騒音については、航空機の状況、測定機材、気象条件等の要因に左右されることから、Ｆ16戦闘機と一概に比較することは困難ではありますが、Ｆ35への騒音はＦ16に比較して大きくなるとの説明を受けているところであります。

また、当該の機種更新に伴い、平素の運用に大きな変更は生じないものの、運用に関しては引き続きパイロットに対してしっかりと教育を行い、地元に配慮して運用していく旨、米側から説明を受けているとのことであります。

これまでも戦闘機が更新されるたびに騒音の質が変わってきたわけでありますが、町としては、町民の命と生活を脅かすようなおそれがある場合には、町民及び議会の皆様と協議し、要請、または議会基地対策特別委員会とともに、町民負担の軽減または不安の軽減等に向けて要望活動を粘り強く行ってまいりたいと考えておりますので、ご理解を賜りたいと存じます。

次に、質問要旨の２点目、町は騒音被害の軽減、解消を目指すという基本姿勢を持つべきであると考えるが、いかがかについてでありますが、国防及び国策として設置されている米軍三沢基地等に係る地理的要因に起因する騒音被害に対し、町としては、議員もご理解いただいているとは存じますが、防衛省とともに住宅防音事業、または民生安定事業等を進め、町民への負担軽減または不安の軽減等に努めているところであります。

また、航空機の飛行時間、または訓練時等の町民への負担軽減に対し、小まめに要請するとともに、毎年防衛大臣、防衛省及び東北防衛局などに議会基地対策特別委員会とともに強く要望しているところであります。

いずれにいたしましても、我が町の町づくりとしては、このような現状を踏まえ、町民に寄り添いながら負担軽減に努め、共存共栄を目指していくものと

考えておりますので、ご理解を賜りたいと存じます。

続いて、質問要旨の３点目、米軍三沢基地による被害や不安について、基地周辺地域の住民の声を聞く懇談会を行う考えはないかについてでありますが、私の公約の一丁目一番地の「住民力が活きる協働の町づくり」でタウンミーティング、地域座談会の開催を掲げており、令和３年度に続き、今年度においても町づくりミーティングを各地区７日間で巡り、実施してきており、町民の様々な不安や悩みなどを伺い、町としてすぐできることはミーティング期間中でも対処し、考慮が必要な案件については、各関係機関と協議して計画的に対応しているところであります。

そのため、議員ご指摘の懇談会につきましては、私の中では既に行っているものと考えておりますし、また町内全域で考える問題や不安などについては、町民に寄り添い、広く町民の声を聞き、地域とともに最善策を考慮してまいりたいと考えておりますので、ご理解を賜りたいと存じます。

以上、答弁とさせていただきます。

○議長（岡山粕男君）　市川俊光議員。

○10番（市川俊光君）　ジェンダーギャップについて取り上げておりますが、ジェンダーというと様々な意味合い、性的少数者も含む言葉になりますけれども、今回取り上げているのは主に男女間の格差ということでご理解していただければと思います。

女性が大変生きづらい社会にあるということで、男性の私が取り上げるのもどうかなという、ちょっと畏れ多い感じがありますけれども、私実は20代、30代、仕事は幼稚園教諭とか、保育所の保育士、それから病院へも勤務しましたし、介護職員とかやってまいりました。主に女性の方が多く働いている職場で同じ仕事をやってきたというのが私の仕事の経歴でありまして、その中でやっぱり痛感してきたことがありますので、多少なりとも自分の経験からも、この問題を取り上げることは非常に大事だという認識の下に、今日こういうテーマで質問させていただいております。

先ほど、我が町でも若干であるが、女性の方が我が町から出ていく傾向が高い、若干であるけれども高いというお話がありました。これは、今若干ですけれども、全国的にはそういう傾向が顕著になっているという状況です。女性に

とって、やはり地方というのは、今若い方は自分の人生、自己実現をする、目指すということを大事にしている方が大変増えております。そうした場合、やっぱり地方の自分が生まれ育ったところには愛着あるのだけれども、自分のこれからの人生で自己実現を図っていこうとした場合、自分が生まれ育った地域では難しいと感じている方が多いのだと思います。

先ほど町長の答弁でも触れていただいておりましたけれども、地方において、大きく言うと２つお話ししたいと思いますけれども、１つは仕事、経済の問題。地方において、まず女性の仕事というのが限られて、就いても、男性に比べて給与が少なく、補助的な仕事の内容が多い。男性と同じように評価されるような仕事に就くことが難しいということがあります。そういう場が少ない。

それともう一つは、地方に根差している伝統的な価値観の問題、それがやっぱり大きいのだと思います。地域などで集まりがあるとも、飲み会なんかやって、男性の方は飲んでにぎやかにやっているのだけれども、それを支えているのは女性で、厨房のほうで仕度したり片づけやったりしているという、そういうところを小さいときから見ていて、自分はそういうふうにはなりたくないと感じるという、これはテレビの番組の中でもそういう言葉が出ていましたし、あとそういうことを若い女性はどう表現しているかというと、東京が令和ならば、地方は江戸時代だという言い方でおっしゃっている方もいました。そういうところをやっぱり変えていかないと、若い女性が地域に定着するということはなかなか難しいのではないかというふうに思います。

先ほど１番目の答弁は、そういう状況だということをおっしゃっていただいたので、理解いたしました。

２番目の質問のお答えの中で、ジェンダーギャップが、多少なりともそれが要因だというお答えの仕方でしたが、地方の人口減少の原因にはいろいろな問題があると思うのだけれども、女性の側から見た視線で言えば、今言ったような女性に対するギャップというのは、相当大きな問題になっているのではないかなというふうに思うのです。

今紹介した東京が令和であれば地方は江戸時代だという、そういう言葉に対して、町長として、それも受け止めてどういうふうにお感じになるのか、お聞かせください。

○議長（岡山粕男君）　町長。

○町長（長久保耕治君）　市川議員にお答えをいたします。

市川議員がおっしゃったことにはちょっと衝撃を受けますが、もしかするとそのとおりなのかなというところもないわけではないのかなと思います。

時代がぐぐっと転換期になって、今議員がおっしゃるように自己実現、いわゆるアイデンティティーを大事にすると。昔のと言えばあれかもしれませんが、以前の日本の教育、道徳、修身においても、どちらかといえば集団主義といいますか、そういった形の中で、よくよく今市川議員のお話を聞いていたときに、1925年に普通選挙制度が施行されたときも、男性だけだったのではないかなと、ちょっと記憶違いかもしれませんが。そういうふうに考えたときに、社会そのものの考え方が、そういった形だったのだろうと。そして、そういったことを教育として根づいてきた社会において、今国際化、グローバル化がどんどん、どんどん進んでいっている中で、それをいきなり変えていくというのは極めて難しいでしょうし、また田舎というか地方というものは、東京であったり、そういった地域に比べると、国際的な交流であったり、そういったものもかなり乏しい、そういうチャンスに恵まれない部分もあると思います。ですので、その考え方が変換していかないという部分があるのかなと思います。

先ほど政治的な経済的な側面というものを市川議員が強調しておりましたけれども、確かに当議会には大崎議員、女性の議員がいらっしゃいますが、女性の立場から夕方レディース検診であったり、子宮頸がんのワクチン接種であったりという女性の立場に立った提案もしていただき、町としては、行政としてはそれを受け止めて、いろいろやってきたわけですが、そういう意味においても、実際ジェンダーギャップというものを埋めていくためには、女性の方々が発言できる機会を増やしていったり、また女性の方々が発言できるような空気感を地方がしっかりつくっていくというふうな、空気づくりというものがすごく重要になってくるかなと思いますので、行政も議会も一緒になって取り組みながら、そういったことに関して、県、国にもしっかり働きかけていかなくてはならないものであるというふうに考えております。

○議長（岡山粕男君）　市川俊光議員。

○10番（市川俊光君）　やっぱり解決が必要な問題だということは共通の認識だ

と思うのです。

それで、さっき紹介したＮＨＫの番組で、あるまちの取組が紹介されておって、それはどういうことかというと、ちょっと失敗したというか、女性を定着させたいと思って、子育て支援や女性を応援する施策をやってきたのだと。10年間取り組んできたのだけれども、結局女性の流出が大きくなってしまっていたということなのです。要するに、我が町も子育て支援等の政策なんかに取り組のではいるのだけれども、それはもともとそこに定着する選択をした人への応援になってしまっていて、そこで自己実現できなかった人は網にかかっていないという中身になっていると。だから、移動する女性を止めるには、もっと新しい、その土地で自己実現できるというものを、さっき言った経済的な仕事の問題や古い価値観の問題、ここにメスを入れないと、せっかく子育て支援を充実しても女性は流出してしまうという、そういう自治体の取組の例が紹介されておりました。

だから、我が町がやってきたのが間違いだとか、そういうことではない。それはそれで重要なのだけれども、解決するにはもっと一歩進んだ方策が必要だというのが今認識として形成されつつあるということなのです。

先ほど町長のほうから男女共同参画プランということも出されていましたけれども、これも実態として、その会議がどのぐらいやられて、どういうメンバーでこれが進められているのかという具体的な中身をちょっと紹介していただくことはできますか。

○議長（岡山粕男君）　町長。

○町長（長久保耕治君）　お答えいたします。

細かいことになりますので、ちょっと担当課の企画課のほうからご説明を差し上げます。

○議長（岡山粕男君）　企画課長。

○企画課長（林　博幸君）　お答えいたします。

第２次東北町共同参画プランの策定時に、町職員16名中、女性が10名で構成されたワーキンググループで、各プランの現状分析や課題など、必要な施策などについて話し合っております。

また、町のＰＴＡや婦人会、あとはＪＡの女性部などの方々で構成された男

女共同参画懇話会では、参画プランの施策に向け、女性の方々のご意見や施策の推進に向け、議論をいただいております。

このように様々な角度から審議していただいた内容を、町三役、また各課長で構成された東北町男女共同参画推進会議で、第２次東北町男女共同参画プランの企画や施策等について、３回の会議の中で審議し、決定しております。

以上です。

○議長（岡山粕男君）　市川俊光議員。

○10番（市川俊光君）　やっていないことはないという中身かなと思うのですが、今世界的に遅れている日本の男女間格差の問題、これを前に進めようとしたら、相当な力が要る仕事だと思うのです。ということになると、やはり常時それに取り組む部署というのは、どうしても私は必要だというふうに思います。

実際、今そういう取組を始めている自治体が出てきておって、よく紹介されるのが豊岡市というところの例が、こういうパンフレットを出してジェンダーギャップの取組を進めております。具体的には、中身まで紹介はしませんけれども、豊岡市とか、今東北では気仙沼市とか、地域に若い女性が定着して、これは男性も女性も住みやすい地域でなければ発展がないということでの取組が始まっております。

ぜひ我が町でも、これまでやってきたことはあるのだけれども、それを前に進める形がどうしても必要だと思うので、これは積極的な踏み出しが必要だというふうに述べて、検討していただきたいと思います。

その上で、町職員の人事の問題です。今日この議場、町の重要なことを決める議場の中に、見ていただければ分かるのですが、課長職であれば誰も女性の方はいらっしゃらない。私の前に見えるのは、事務局の次長さん１人です。これが町の意思決定を支配しているというのが実態だと思うのです。男性も女性も同じぐらいの数の人が同じような部署で働くような状況をつくっていくということは必要だと思うのですが、町長、いかがお考えでしょうか。

○議長（岡山粕男君）　町長。

○町長（長久保耕治君）　お答えをいたします。

市川さんのおっしゃるとおりではあるなとは思います。役場の採用に関して、例えば男性だ女性だという性別とか、そういったものを全く関わりなく採用し

ておりますので、採用の性別にむらがあったりするという部分は、市川議員もご理解できていると思います。

ジェンダーギャップ指数の、物すごく低い原因のところに、経済と、もう一つ政治というお話をさせていただいております。先ほどの部署を新しくつくるということに関しても、女性の声がしっかり届けば、そういった部署が出来上がる仕組みになっていくということもあると思います。

職員の配置に関しては、公正性がどうしても問われます。そういう意味で、今の役場の男女比が正直ある事実から考えると、男性が多い状況が少し続くのかなというふうに思っておりますが、年代によっては女性のほうが多く採用されたときがあったりとか、そういう意味では全然そういうのに、たまたま今こうなっているという部分があると思います。

私も登用等においても、これは当然公正性というのがありますが、男性だから女性だからということではなくて、やはり女性ならではの視点というのが物すごく大事になってきています。自己実現という言葉にあるように、まさにそういったことにつながっていくかと思います。そういうのを踏まえて、今後も公正性をしっかり持ちながら、能力によってしっかり登用してまいりたいというふうに考えておりますので、ご理解いただければと思います。

○議長（岡山粕男君）　市川俊光議員。

○10番（市川俊光君）　お話の中で、公正にやっているのだけれども、たまたまこういうふうな状況になっているという理解というお話があったのですが、基本的に今男性優位の社会の中で、この状況の中で公正にやっていても、やっぱり浮き上がってくるのは男性というのが自然な流れになってしまっているということなのです。

これを変えようとしたら、意識的、意図的な取組がどうしても必要で、そこは公正性を打ち破るということではなく、その上に立って意識的に女性の登用を進めるというくらいの取組が必要だと私は思っています。そういうことがなければ、これまでの現実を見れば、やっぱり結果がそうなっているのだと思うのです。ですので、ぜひここは意識改革も必要なところですけれども、意識的に男女間の問題を解決するのだという方向での人事の取扱いもやってほしいということを述べておきます。ジェンダーの問題は以上です。

次は、Ｆ35の配備に関わっての問題です。Ｆ35の配備についての東奥日報の記事を読みます。「三沢基地に配備されるＦ35Ａは第５世代と呼ばれる。優れたステルス性能を生かし、敵の防衛システムをかいくぐって攻撃することが可能だ。同基地では、滑走路を共用する航空自衛隊が６年前からＦ35への運用を始めている。15日時点で39機が配備されており、24年度をもって全42機の配備が完了する見通しだ。将来的に米軍、空自と合わせてＦ35Ａは90機体制となり、世界でも類を見ないＦ35Ａの集積地となる。一方、Ｆ35Ａは出力が大きいため、三沢市民の間ではこれまで以上に騒音が悪化するといった懸念が高まっている」というのが東奥日報の記事です。

三沢市民の間だけではなくて騒音が悪化するということで懸念が高まっているのだと思うのですが、さっき説明の中でも騒音が今より激しくなるということは認識としては述べられているのですが、私は相当これまでと違った状況が生まれるのではないのかなというふうに感じています。これについては、単に機種が更新されたというよりは、状況がすごく変わるのだというような認識で対応していくことが必要かなというふうに思うのです。

それで、質問の最後の３点目のお話ですけれども、こういう状況が大きく変わるときは、せめて住民に対して、変わりますよと、さっき言った騒音が大きくなるということも、もう既に認識としては述べているわけですから、了解してくださいと言われても、簡単には了解できないのですけれども、せめてものそういう説明の場というのはあってしかるべきでないのかなと思うのですが、いかがでしょうか。

○議長（岡山粕男君）　町長。

○町長（長久保耕治君）　お答えをいたします。

さっきの答弁で、いろいろそういった意見を聞く場というふうにちょっと受け止めておりましたが、今市川議員からお話があったように、状況が変わった、例えば増えた、そういった部分の中で、どういった状況なのか、また要望を聞くということは、議員のご指摘のとおりだと思います。そういった場合は説明会を開いたり、説明をしたり、いろいろな状況を聞く。結局は、私たち行政もそうなのですが、基地対策特別委員会とともに要望していく中で、今の現状はこうですよと、だからこうしてくださいということを要望するわけです。そう

いった中で、現状をしっかり把握するという作業が、これは必ず必要になってまいりますので、議員おっしゃったような形で住民に対する説明会等を開催する旨、こちらのほうで前向きに考えてまいりたいと思います。

○議長（岡山粕男君）　市川俊光議員。

○10番（市川俊光君）　ありがとうございます。

一部で騒音というのは、どこでも飛んでいれば騒音を感じているというふうな言い方をされる方もいますが、三沢基地周辺の騒音状況というのは東北防衛局のホームページで常に公開されて、観測地点も幾つかあるのですけれども、我が町、そして基地に近い地域は騒音の音も大きいし、何よりも回数がやっぱり基地に近いと多いのです。そういう苦しさというのは、基地に近いところと離れているところは全く違うので、やっぱりそういう生の声をぜひ聞く機会を持っていただければということを要望して、今回質問を終わらせていただきます。どうもありがとうございます。

○議長（岡山粕男君）　これで10番、市川俊光議員の一般質問を終わります。

◎散会の宣告

○議長（岡山粕男君）　以上で本日の議事日程は全部終了しました。

本日はこれで散会いたします。

（午後　零時１４分）